

1年生

教科	成果	課題	重点取り組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> 字形や書き順に気を付けて平仮名を書くことができるようになった。 音や言葉のリズムを味わいながら楽しく読み、音読劇にも意欲的に取り組んでいた。 読書や読み聞かせに親しみ、興味をもっているいろいろな本を読む姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎互いの話に関心を持ち、内容を正確に理解できるようになること。 文章を読んで、内容や感想などを伝え合うこと。 「は、を、へ」や促音、拗音、句読点を正しく表記する力を身に付けること。 文章を読んで理解する力の個人差が大きいこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語学習に意欲的に取り組めるように、個々の実態を正確に捉え、個に応じた適切な課題を設定する。 他者の考えに、興味・関心が向くように、伝え合う活動を重視していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や絵を見ながら問題を読み取り、立式することができるようになってきた。 具体物の操作や図などを活用しながら、筋道を立てて考えを進める経験を積ませ、自力解決できる児童が育ってきている。 ICTを活用し、個別最適化された課題に熱心に取り組む姿が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎問題を一人で読み取り、場面を理解したり自力解決したりすること。 具体物や、図、式などを使って、順を追って考えを進めたり、自分の考えを適切に表現したりする力に、個人差が大きい。助言や支援の必要な児童が多い。 これまでの数に対する感覚や経験の差が大きいため、問題を理解し演算決定するまでの時間の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を操作して理解を深めたり、図や式で問題場面を表したりする機会を多く設定する。助言や支援によって、自力解決する経験を積ませていく。 計算の速さ、正確さについては、個人差が大きい。計算ドリル等を活用して習熟に取り組みさせる。 日常の場面を想定させ、数に対する感覚を身に付けさせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに学校探検を行い、学校の施設や働く人たちに興味・関心をもって見学をすることができた。 学校の周りや公園に校外学習へ出かけ、自然と触れ合うことができた。 アサガオの栽培を通して、成長を喜ぶ姿がたくさん見られた。 アサガオの観察記録を書く視点を、国語の学習と連携しながら学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分が体験したことを絵や文章に表す力がまだ十分育っていない児童がいる。観察記録を書くと、個人差が見られる。 体験活動だけで終わってしまう児童がおり、気付きや思いを表現する力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが思いや願いをもつような働きかけ、また、子どもの試行錯誤が生まれるような環境構成を意識し、繰り返しの活動を促すとともに、交流や伝え合いなどの表現活動により児童の気付きの質が高まるよう、今後も授業を工夫していく。 児童が体験したこと振り返りやすいように、事前に観察する視点などを繰り返し伝えるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて楽しく体を動かしたり、拍に合わせてリズム打ちをしたりすることができた。 季節の歌やハ長調の歌などを楽しく歌ったり、簡単な打楽器や鍵盤ハーモニカの基本的な奏法を身に付けたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎友達の歌声や、友達が演奏する楽器の音をよく聴くことや、周りの音に自分の音を合わせて演奏することが難しかった。 鍵盤ハーモニカの演奏では、きれいな音色や正しい指使いで演奏する能力に個人差が大きい。個別対応が必要な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員での演奏だけでなく、ペアやグループ演奏を取り入れ、互いの音を聴きながら演奏する機会をもち、聴く力を育てる。 日常の授業の中で、音や声を「聴く」という姿勢を大切にするように声かけをする。

<h1>図工</h1>	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の好きなものや好きなことを思い浮かべて発想を広げ、楽しく制作活動や造形遊びに取り組む児童が多い。 • 材料や道具などの用意、使い方、後始末など自分でできることが増えた。 	<p>◎発想や、構想には個人差があり、自分の思いを形に表すことに自信がなかったり、やることの理解に時間がかかったりし、なかなか制作に取り掛かれない児童が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • はさみ等の使用の基本について、さらなる定着を図り、全員が安全に活動できること。 	<ul style="list-style-type: none"> • 制作の過程の中で、個々の児童へのひらめきや表現を肯定的に受け止め、称賛する声掛けをし、自分らしさへの自信につなげていく。 • 児童が制作活動のイメージをもつことができるように、資料を多数用意したり活動に入る前に意見をたくさん出させたりする。 • はさみや絵の具セットの正しい使い方などが分かりやすいように、視覚的に学べる機会を多くし反芻する。
<h1>体育</h1>	<ul style="list-style-type: none"> • 校庭の遊具を使い、体を動かす経験をさせた。繰り返し取り組むことにより、それぞれの技能を高めさせることができた。 • 鬼ごっこやドッジボールなどを行い、学級の友達とルールのある遊びに楽しく取り組むことができた。 • 表現運動では友達と一緒に体を動かす楽しさを味わいながら、前向きな気持ちで練習をすることができた。 	<p>◎運動経験の個人差が大きい。運動経験が少ない児童の中には、なかなか体を動かそうとせず、技能の上達が難しいことがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 決められた時間の中で、十分な運動ができるよう、授業の流れを工夫し、運動量を確保すること。 • ルールを正しく理解して運動することが難しい児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 休み時間の外遊びを推奨していく。教師も共に活動し、運動経験の少ない児童に体を動かして遊ぶ楽しさを味わわせるとともに、活動する場の工夫を行い、運動能力向上への意欲につなげていく。 • 取り組ませる運動遊びを誰でも楽しく活動できるものにし、児童の「できた」を実感させるようにしていく。